

学校名	神奈川県茅ヶ崎市立浜須賀中学校

活動のテーマ	自助から互助へ ～減災を自分事に、皆事に～
主な教科領域等	教科領域（ 総合 ）
活動に参加した児童生徒数	（ 1 学年 211 人）（複数可）
活動に携わった教員数	9 人
活動に参加した地域住民・保護者等の人数	9人【保護者・地域住民・その他（消防士6名・減災学習講師3名）】 ※児童生徒・教員以外で活動に参加する人の区分に丸をつけ、人数をお書きください。（複数可）
実践期間	西暦 2020年 10月2日 ～ 西暦 2020年 10月21日
想定する災害	※該当するものに丸をつけてください。複数可。 地震・津波・台風・洪水・河川氾濫・土砂・その他（ ）

活動報告

1) 活動の目的・ねらい

《目的》

茅ヶ崎市立浜須賀中学校は海から非常に近い立地で、生徒の学区に関しては海から500m以内に住んでいるという生徒も少なくない。今後何年間かのうちに起こりうるであろう大地震、その際に津波が起きた場合にも自分の命を守るために自分で考え行動できるようにする。周りの人や地域の人を救えるように地域の人たちと関わり、自分たちが得た知識を広め地域に貢献する。
(学校教育目標：自律・貢献・共育)

《ねらい》

- ①災害から自分の身を自分で守るために知識を身に付ける。
- ②オリジナルの減災マップを作成し、家庭でも災害について考える機会にする。
- ③地域の防災訓練でマイ減災マップを使って減災について広く地域に啓蒙する。

2) 実践内容・実践の流れ・スケジュール（※図表等を使用して分かりやすく記述してもよい）

①防災学習

- ・「災害と聞いてどんなイメージをするか」→災害に関する基本知識をつける

②防災アカデミー（茅ヶ崎市消防職員による講演）

- ・「災害が起きた時の行動や気を付けること」→緊急時の心情の変化、行動する際に気を付けることを学ぶ

③減災マップ作り（減災アトリエの職員）

- ・マップ内に自宅、学校、津波一時退避避難場所、避難所、広域避難場所にシールを貼り、地域の立地や危険箇所を学ぶ。
海拔の低いところにマーカーでラインを引き、目印の建物から場所を把握する。

④地区防災訓練での発表（新型コロナウイルス感染予防の為、防災訓練が中止となり、実施できなかった）

3) 9月研修会の学びの中から自校の実践に活かしたこと。研修会を受けての自校の活動の変更・改善点。

昨年度まで（助成金を受ける前）の実践と今年度の実践で変わった点。助成金の活用で可能になったこと。

- ・研修会の中であった東日本大震災のエピソード。中学生が震災のための知識を深め、自分で考え行動できるようになっていた為、地域の人を助けた話を例に挙げ、主体的に避難できる生徒の育成。
- ・主体的に行動できるようにするための基礎知識の学習、それを応用した減災マップ作りの講演会。
- ・地域の施設（公民館）などで、学んだ知識を地域に広げる発表を行う予定だったが新型コロナウイルスのため中止。

4) 実践の成果

①減災(防災)教育活動・プログラムの改善の視点から

- ・実際に大きな災害を体験した学校の経験や経験から得たことをもとに改善していった防災・減災学習は、リアルな話が多く大変勉強になった。

②児童生徒にとって具体的にどのような学び(変容)があり、どのような力(資質・能力・態度)を身につけたか。

- ・事前の生徒のアンケートの中では学校以外の場所で災害が起こった時にどう行動して良いかわからないというものが多かった。減災マップ作りの後は、「自分が市内のどこの場所においても、どこに避難し、避難後にどういう行動をとれば良いかわかるようになった」や「困っている人がいたときに助けてあげたい」というような声上がるようになった。今回の体験から自分の知識を深め、それを実際の行動に活かすための行動力を身につけることができた。

③教師や保護者、地域、関係機関等(児童生徒以外)の視点から

- ・活動の中で知識や具体的な行動をインプットする場面は作れたが、アウトプットする場面があつてこそ、いざ本当に災害が起きた時の行動力にもつながると思う。そのためには、新型コロナウイルスが収まった際には小学校や周りの施設に今回の体験を共有できるような発表の場面を設け、アウトプットする場面を作っていきたいと思う。
- ・保護者からは、減災マップ作りの当日に家で話をして家族と知識を共有できた生徒もいると聞いている。

5) 自校の実践で工夫した点、特筆すべき点

- ・各自が自分の活動場所を中心に、自分だけの減災マップを作れたことで、興味を持って進めることができた。

6) 実践から得られた教訓や課題と今後の改善に向けた方策や展望

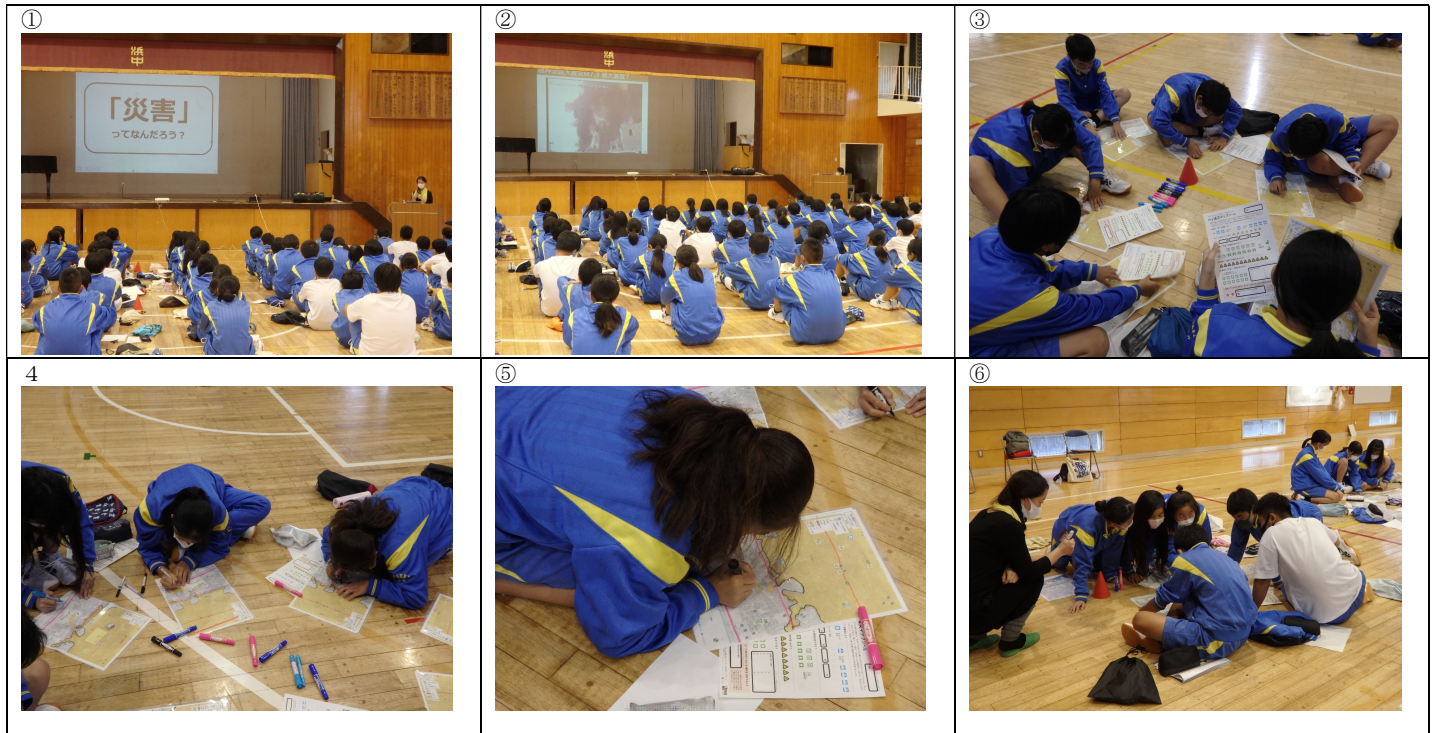
- ・避難訓練は学校では毎年行っている。だが実際には学校外で災害に合う可能性が非常に高い。今回の体験の中で生徒の話を聞いてみると、学校外で災害に合った時の行動が分からないという生徒が多くいたことが分かった。行ってはいるが今後は学校外を想定した避難方法の知識をもっと深めていく必要があると感じた。

7) その他 (※特にあれば記述)

※別途、補足資料などがある場合は、添付してください。 (添付資料の 有 ・ 無)

下に活動の様子を記載

○減災マップ作り活動の様子



《 減災マップ 写真の説明 》

1枚目：まず前半は、スライドで災害についての基礎的なことを教えていただいた。災害とは何なのか、実際に日本で起こった災害についての動画を見たり、実際に地震が起きてからどのくらいの時間で津波が来るのかをクイズ形式などで教えてもらったりしながら学んだ。

2枚目：日本で実際に起きた阪神淡路大震災や東日本大震災などのその当時の実際の映像を見て、理解を深めた。

3枚目：減災マップ作りの最初は、シール貼りをを行った。自宅、学校、避難所、広域避難所、津波一時退避場所などがどういった位置関係になっているのかを理解した。

4・5枚目：自分たちが住んでいる地域の、海拔10メートル以上の範囲はどこか、津波はどこまで押し寄せてくるのか、避難するときに使う太い主要道路はどこかなどを色分けして区分した。実際に自分でシールを貼ったり、線を引いたりすることで、より身近に考えるきっかけになるという意見も生徒から出た。

6枚目：自宅にいたらどこの道を使ってどこに避難しなければならないのか、など完成した減災マップを見ながら、講師の鈴木さんと一緒に話し合う場面も見られた。

茅ヶ崎市ハザードマップ

火災時のクラスター

茅ヶ崎市津波ハザードマップ

※保持

本図は津波被害の危険度を示すものではありません。津波被害の危険度は、津波の規模や津波の到達時刻、津波の到達するまでの時間などによって異なります。また、津波の規模や津波の到達時刻などによって、津波の被害の程度も異なります。

地震発生!

地震（強い揺れ、長時間の揺れ）の対応

- 落ち物や家具を避ける
- 火の始末
- 出口の確保

津波警報発表

津波一時避難場所や避難所等への避難

津波の危険な状況が継続する場合は、すぐに津波一時避難場所や避難所、または最も近い場所（高台）へ避難する。

津波情報を入力

安全な場所で待機し、津波警報が解除されたら、ラジオ、テレビ、携帯電話から情報を入手する。

自宅または避難所へ移動

津波警報が解除されたら、一時避難した場所から自宅または避難所へ移動する。

自宅または避難所での生活

自宅や施設が安全であれば、自宅で生活し、津波の危険がなくなった後に避難所へ移動する。

この浸水区域は、平成24年3月30日に神奈川県より示された津波浸水予測図を基に作成しております。

津波一時避難場所
津波発生時に、津波の危険な状況が継続する場合は、すぐに津波一時避難場所や避難所、または最も近い場所（高台）へ避難する。

避難所
津波発生時に、津波の危険な状況が継続する場合は、すぐに津波一時避難場所や避難所、または最も近い場所（高台）へ避難する。

このマップは冷蔵庫やトイレの壁など、日頃からよく目にするところに貼っておき、避難先・避難経路を常に意識するようにしましょう。

【火災時のクラスター危険地域】

色がついている地域がクラスター地域

このマップは冷蔵庫やトイレの壁など、日頃からよく目にするところに貼っておき、避難先・避難経路を常に意識するようにしましょう。